

第 24 回狭山市民芸術祭開催さる

令和 6 年 2 月 20 日（火）から 25 日（日）まで、狭山市民会館を会場に第 24 回狭山市民芸術祭を開催しました。今年は、テーマを「次世代につなぐ」とし、「入間地方に伝わる郷土芸能の宴」と題した企画公演では、江戸時代から伝承されている三芳町の「竹間沢車人形」公演や、狭山で長く継承されている民俗芸能祭囃子を、4 つの囃子連・保存会による共演にてお楽しみいただきました。



加盟団体である、狭山市美術家協会・狭山市民美術協会・狂言入間川を観る会による作品展示では、絵画・版画・彫刻・工芸・書・写真・手工芸など比較的コンパクトながら見応えのある作品が並べられ、訪れたお客様の目を惹いていました。



24 日（土）・25 日（日）には、狭山市いけばな連盟による、「春爛漫」と題したお迎え花が会館入口のロビーに飾られ、早咲きの桜などで豪華絢爛にお客様をお迎えしました。第 4 会議室でのいけばな展示では、熱心に質問する方も増え、心が落ち着く、ホッとするという声も上がっていました。最終日は悪天候でしたが、展示部門全体では、延べ 1,500 人の来場者がありました。



また 24 日（土）の茶席では、今年度もコロナ、インフル対策として、一客一碗で全席分のお茶碗を用意し、狭山市茶道連盟所属の 4 流派が交代で、6 名一席を基本として、ゆつくりと 14 席 68 名の方にお茶とお菓子を味わっていただきました。



大ホールロビーでは特別展示として、「狭山にゆかりのある文化人」パネル展示が行われ、故人および現役で活躍されている文化人を取材し、その経歴や狭山市との関わり等を紹介しました。パネルの作成などでは自治文化課に協力を仰ぎました。合わせて、三芳町「竹間沢車人形公演」の舞台写真と実物の車人形を展示しましたが、多くの観客が興味を持って観覧して下さいました。



24 日（土）小ホールでの舞台発表「世代を超えて」では加盟 10 団体による、吟詠・舞踊・フラダンス・邦楽演奏・オカリナ演奏・放送劇・演劇が行われ、紫式部をテーマとした構成吟、初参加の「飛鳥の会」による日本舞踊・演出に工夫を凝らした創作舞踊などで観客の眼を楽しませてくれました。また、日本舞踊や新舞踊では、青少年体験フェスタに参加した子ども達の踊りが毎年披露され、その成長ぶりには目を見張るものがありました。

25 日（日）中ホールでの企画公演「入間地方に伝わる郷土芸能の宴」では、第一部に笹井囃子連（笹井豊年足踊り保存会）・広瀬囃子保存会・西方囃子保存会・堀兼囃子連の 4 つの団体の共演で「狭山の祭囃子」をたっぷりと味わっていただき、第二部では三芳町 竹間沢車人形保存会と、説経浄瑠璃師 三代目若松若太夫の出演で、竹間沢車人形公演「寿式三番叟」「日高川入相花王恋闇路～安珍清姫悲恋物語～」を上演。いずれもそれらを長く伝承してこられた方々の気持ちがこもった熱演で、日本の伝統的民俗芸能の素晴らしさが堪能できた公演となりました。（舞台光景は次ページ）